

踏まれても踏まれても生き返る

NO.18 2025.2.9

編集：発行 木村松夫

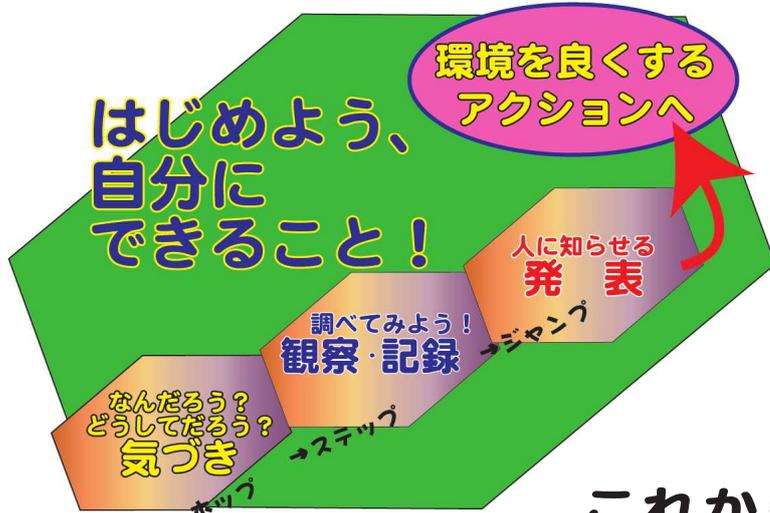
090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

# いたばし雑草通信

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。鮮明画像のPDFでお送りします。

## 引退プロセスが完了しました



2023年12月に活動の第一線からの引退を表明してからのこの1年間は、後に続くみなさんのフォローと残っている仕事のしめくくり集中してきました。現在ではそれもほぼ終了し、2月1、2日に開催された板橋区立エコポリスセンターの「環境なんでも見本市」を最後に、ようやく団体などの集団活動や行政と協働した事業からの引退が完了しました。

これまで、一緒に活動してきたみなさん、様々な支援の手を差し伸べてくれたみなさま、どうもありがとうございました。

## これからは・・・ 原点に立ち戻って、物事を考え続けたい

引退の要因は高齢化による体力と気力の減退で、他人と一緒に活動はもう無理、活動力がまったくなくなってしまう前に、次の人たちにバトンタッチしなければならないと考えたからでした。この1年間、いろいろなことがありましたが、この決断は正解でした。

今回の「環境なんでも見本市」では実行委員を務めました。自分自身の活動発表はやめにして、エコポリに登録している「かんきょう観察員」さんたちの自主研究をパネルにして貼り出し、たくさんの人に見てもらえるようにしました。左上のフローチャートは、見本市全体のキャッチフレーズである「はじめよう、自分にできること」を「観察」→「記録」→「発表」→「行動」のステップにして説明したものです。引退後の木村はエンジンの切り替え中。これからは一人でできる範囲内で、このステップを登ろうとする人たちを手助けすること＝他人のための活動にも力を注いでいくつもりです。

## ☆驚異の生命力☆ 霜枯れから立ち直るホトケノザ

最近のホトケノザの展開は早く、12月にはあちこちの道端で開花していました。でも、1月になって極寒が襲い軒並みに霜枯れて、1/9には下左の写真の状態。全滅かと思いきや、2/6にはまだ寒中なのに霜焼けになった葉の下から青々と新鮮な葉を伸ばしています（右写真）。すごい生命力！ こういうのを「雑草」と呼ぶとしたら、わたしは雑草になりたい！（両方の写真で鮮やかな若葉はカラスノエンドウの展葉です。）



# 昨年（2024年）に亡くなった有名人

インターネットのYAHOOニュースで逝去が報道された方々=635人  
平均年齢は亡くなった方の人数から年齢非公表の方の人数を差し引いて算出  
そのジャンル別内訳を逝去平均年齢が若いほうから並べたもの

ジャンル	ジャンル別人数	平均年齢	年齢非公表
05ミュージシャン	38人	65	
12スポーツ・同関係者	94人	67	
03芸能界	36人	70	1人
10漫画家	12人	72	2人
01歌手	28人	74	
02俳優・声優・演劇界	108人	75	2人
14放送、ジャーナリズム	30人	76	
13美術家・芸術家・建築家・クリエイター	39人	77	3人
18その他（Utuber、インフルエンサー、その他有名一般人）	20人	81	
09脚本家・劇作家	7人	82	
07映画監督・プロデューサー・映画製作関係者	17人	82	
11絵本作家	6人	83	
08作家・評論・文筆家・俳人・詩人	36人	84	2人
16財界人・実業家・経営者	45人	84	
17政治家・高級官僚・高級公務員	55人	84	
15学者・研究者・教育関係者・法曹界・社会活動家	53人	85	
06作詞・作曲・音楽家	12人	86	
00ジャンル外特記（皇族）	1人	101	

## ネットのニュースで訃報が急増中！

自分がその年齢になったからなのでしょうか、あるいは（同じことですが）、若いころによく映画やテレビで見ていた同時代の学者や役者さんたちが次から次へと他界されるのを聞いて、インターネットのニュースで報じられる「有名人の死」について関心をもつようになりました。

「有名人」と言っても、とりわけ定義があるわけではなし。ここではわたしがインターネットで常用しているYahoo Japanのニュースで訃報が伝えられた方々を「有名人」としているのですが、ほとんどわたしの知らない人ばかりです。でも、知らないのはこちらの見識・知識不足なのであって、みなさんそれぞれのジャンルで良くも悪しくも人々に大きな影響を与えてきた方々なのでしょう。

驚くべきはその数の多さです。昨2024年1年間で訃報が伝えられた方は653人、1日平均1.8人の有名人がこの世を去っていきました。

今年は2月7日までの5週間で116人、1日平均ではなんと3.3人という「訃報ラッシュ」です。最近のネットニュースには旧来からの新聞社・報道各機関のほかにもスポーツや芸能の専門サイトか

らの情報が集まってくるので、飛び込んでくる情報の量も増えてくるのですが、それだけではないような気がします。

## 世界がぐらついている現われか？

第二次世界大戦が終わって80年、この間、世界はバタバタと動いてきたとはいえ、西側と東側という世界構造は変わらずに推移してきました。しかし、この数年、体制の如何を問わず巨大国家による強権的・抑圧的・侵略的政治がはびこり、一触即発の戦争の危機が増大しているのに加えて、異常気象やコロナウイルスの蔓延などグローバルな諸問題が地球を覆い「不安な時代」になってしまったことが訃報報道を多くしていると感じるのです。でも、それは木村だけの感覚です。

## スポーツマンが早死とは・・・

さて、上の逝去された方々のジャンル別平均死亡年齢を見てみると活力旺盛なロックバンドなどの「ミュージシャン」、身体強健のはずの「スポーツ・同関係者」や芸能関係者がもっとも早死なのは、どうしてでしょうか？

これは、考えてみる価値がありそうです。